



鹿児島県立甲南高等学校

進路指導室だより

平成28年度 第5号(9月29日発行)

挑戦する心

9月も下旬になり、体育祭と文化祭が終わった。3年生は10月初めの中間審査中にセンター試験100日前を迎え、いよいよ実力を発揮すべき季節が近づいてくる。1, 2年生も放課後に3年生の教室の廊下を通れば、黙々と3年生が学習している姿に、身が引き締まる思いをした者も多いことだと思いたい。

さて、甲南高校がSGHに指定され、W-KIや各教科において「思考力・表現力・判断力」を伸ばす取組が行われているが、SGH指定以前であっても甲南高校には多くの才能ある生徒がいた。振り返ってみれば、陸上でインターハイ2位でアジアジュニア陸上競技大会に出場した生徒、歌唱で日本1位になった生徒、中国に書道で派遣された生徒、アナウンスで日本1位になった生徒、チアリーディングのパリ世界大会に出場した生徒等々、他にも様々な才能を持った多くの生徒が甲南高校に集まっている。そのような同級生や先輩・後輩とともに3年間を過ごせることは幸せなことだと思わざるを得ない。



現在も様々な生徒がいる。「思考力・表現力・判断力」の伸長に特化して考えてみると、昨年度、2年間に一度全国で4人の高校生だけが選ばれる「オーストラリア科学奨学生」に現3年生の山下紗理奈さんが選ばれた。旅費・参加費が国から支給される「オーストラリア科学奨学生」では、シドニー大学において、アジアやオセアニアの高校生とともに寮生活を送りつつ、世界的な学者から様々な講義の受講や(もちろん英語である)、大学の原子反応炉を観察、シドニー湾ナイトクルーズ(!)など、「思考力・表現力・判断力」を鍛える機会が充分に与えられる。例えば、ある講義では「ストローのみを使って、2階から落としても割れないようにできるか」という問題を与えられ、各国の代表の生徒と討論しながら、実際にストローで工作し、実験を行ったと報告を受けている。残念ながら卵は割れてしまったそうだが、皆で協力して考えることの大切さを学んだと聞いた。討論して、実際に試す。まさに今、日本の高校生が求められている学力に他ならない。これは来年度1学期にまた募集がある。

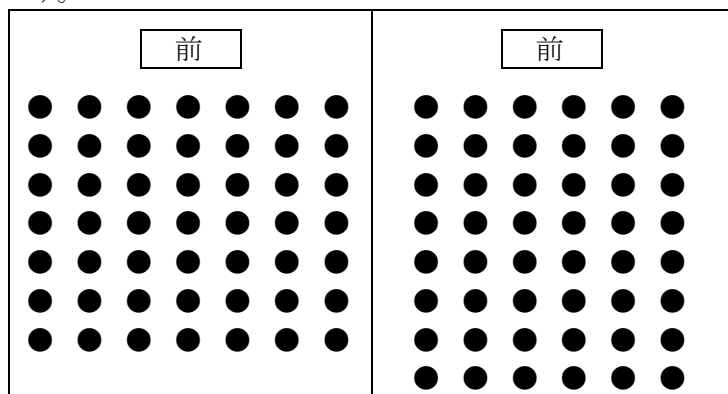
また、現在2年生の伊島美咲さんは九州大学で実施されている『世界に羽ばたく未来創成科学者育成プロジェクト(FC-SPプログラム)』に参加している。この九州大学のプロジェクトでは、他県の優秀な生徒と一緒に課題探求型のプロジェクトに参加したり、英語で科学についての講義を受けたりする。本人によると「プロジェクトの参加は、例えば3Dプリンターについて学ぶ機会などもあり、とても楽しい」とのことだ。かなり狭き門だろうが、優秀であれば2年目に海外で研究発表をする機会も与えられる。このプロジェクトも来年度に再度募集がある予定である。

もちろん、自分を伸ばす機会とは実は上の2つだけではない。数学オリンピックなどの教科のコンテストもある。他にも、課題研究のプレゼン大会や模擬国連大会、ディベート甲子園、ビブリオバトルや本校主催の高校生シンポジウムなど、自分の「思考力・表現力・判断力」を伸ばす機会は、案外目の前に多く転がっているのである。大きな問題は、その機会をしっかりと捕まえることができるかという点である。高校時代にしかできないこと、高校時代にしか学べないことが必ずある。「わっぜ甲南むかで」ではなく、「わっぜ甲南生」としての自分の可能性に掛けて、ぜひいろんなことに挑戦してほしい。落ちるリンゴを待っている場合ではない。アインシュタインも“Anyone who has never made a mistake has never tried anything new.”との言葉を残している。挑戦なき結果はない。挑戦する心を持とう。

【考えてみよう】

現在、「思考力・判断力・表現力」についてよくニュース等に出ているが、様々な基礎知識を得た上で、総合的に考える力が必要となってくる。例えば次のことがなぜいつも起こるのか、分かるだろうか？

甲南太郎君は、新入社員である。あるとき、会社で50人程度の説明会を実施するために横7個で7列分の椅子を用意した（図1）。しかし上司から6×8（図2）で並べ直すように言われたので、並べ直したところ1個椅子が余った（両方とも縦と横の和は同じなのに！）。

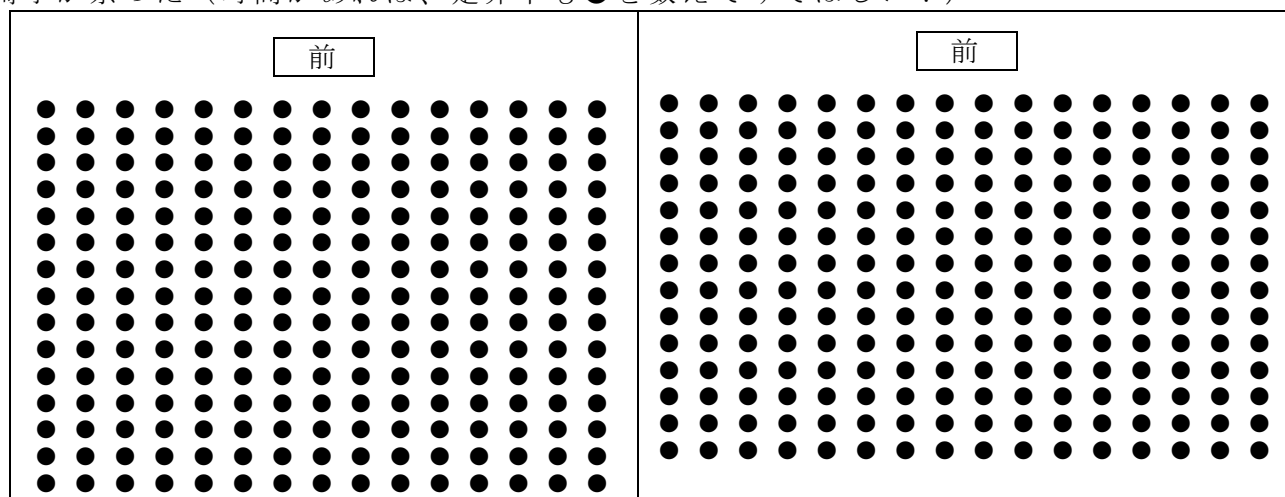


（図1）49個

（図2）48個



また、次の機会に230人程度の人がある会があり、横15個×15列（図3）で椅子を用意したところ、またもや上司から14×16（図4）で並べ直すように言われたので、しぶしぶ椅子を並べ直したら、今回も両方とも縦と横の和は同じにも関わらず、また1個椅子が余った（時間があれば、是非下も●を数えてみてほしい！）



（図3）

（図4）

甲南太郎君はそれから何度も同じような経験をしたが、縦と横の列を同じにしてから、縦と横の数を1個ずつ変えて椅子を並べた場合、いつも必ず椅子が1個余ることが分かった。なぜ常に椅子は1個余るのだろうか。考えて分かったら、友達と話してみよう。

【センター試験100日前】

センター試験まで10月6日(木)でセンター試験100日前。合否を決めるのは、一説によると問題演習量とのこと。どれだけやり込んだかと言うことが決め手になる。がんばれ3年生！

★**がんばれ**★
★**受験生!**★